

在アゼルバイジャン日本大使館
2022 年 3 月 9 日

ロシア・ウクライナ情勢がアゼルバイジャン経済に与える影響

ロシアのウクライナ侵略後、これまでのところ、アゼルバイジャン国内の市民生活は平穏であり、経済社会情勢にも(少なくとも表面上は)大きな変化は見られません。

外交面では、ロシアとウクライナの両国ともアゼルバイジャンの歴史的な友好国であることもあり、アゼルバイジャン政府はウクライナへの人道的支援を行いながらも、ロシアに対する非難は控え(先般の国連総会でのロシア非難決議では無投票)、交渉による平和的解決を呼び掛けています。

一方、経済面では、アゼルバイジャンは伝統的にロシア、ウクライナと貿易、ビジネス、人的交流で深い関係を有しており、今般のウクライナ侵略と対露制裁により今後様々な影響を受けるものと予想されます。現状で考え得る影響を以下に記します。

1. 石油・ガス価格の高騰による外貨収入、歳入の増加

ロシアの原油・天然ガス生産、輸出に係る制裁を受けた石油・ガス価格の高騰は、これらの産出国であるアゼルバイジャンにとって輸出額、外貨収入の大幅増加につながります。今年度予算での想定油価 50 ドル/バレルの超過分(9 日現在のアゼリライト価格 135.99 ドル)は国家財政上のボーナスとなります。

2. 小麦の国際価格高騰による食料・パン価格の上昇

小麦の主要産地であるウクライナでは今春の作付けが困難視され、小麦の国際先物価格が高騰しています。アゼルバイジャンの小麦の自給率は約 6 割、特に食用小麦では約 3 割と低いため、小麦価格の高騰が主食のパン価格の上昇につながり、国民(特に低所得者層)の不満が募る事態を政府は危惧しているのではないかと考えられます。

3. ロシア経済の混乱、ルーブル暴落による農産物等の輸出の減少

アゼルバイジャンにとってロシアは非資源輸出の 1/3、農産物・食品輸出の 6 割を占める最大の市場です。このため、対露制裁によるロシア経済の混乱と国民の購買力低下により、アゼルバイジャンからの輸出は大きく制約されます。また、ルーブルの暴落(アゼルバイジャン・マナトに対し約 3 割下落; マナトは米ドルに対して実質固定)は、アゼルバイジャンの農家

等輸出者の受取金額の減少となり、深刻な打撃を受けます。

4. 対露金融制裁によるロシアからの送金の滞り

ロシアの金融機関が SWIFT から排除される結果、ロシアとの貿易その他の金融決済や親族間の送金等に支障が生じます。ロシアからアゼルバイジャンへの送金額は年間 30 億ドル程度と推定され、上述のとおりロシアとの密接な貿易、ビジネス、人的交流関係を有するアゼルバイジャンとしては極めて深刻な問題です。

5. ロシア、ウクライナ在留アゼルバイジャン人の帰国による労働市場の混乱

ロシアには 250 万人、ウクライナには 50 万人のアゼルバイジャン人が在留していると言われます。両国の混乱、経済的苦境を受けて、彼らの多くがアゼルバイジャン(人口 1,000 万人)に帰国した場合、失業者の増加や賃金の低下など労働市場の混乱、さらには国内治安上の問題も懸念されます。

以上のほかにも、ロシアや同国経由欧州向け物流の混乱、ロシア、ウクライナからの観光客の減少による観光産業の打撃など、各方面に影響が生ずるものと思われ、その広がりや深刻さの程度は未だ分かりません。今後、事態の推移を注視し、皆様へ報告したいと考えております。

(以上)